



特集

「オピオイド系鎮痛剤について 整形外科」

副院長 北平 裕史 (きたひら ひろし)

腰痛や関節痛、神経痛の対症療法としてさまざまな鎮痛剤が処方されています。しかし、それでも抑えきれない中等度から高度の疼痛も存在します。そんな時に用いることができるのがオピオイド系鎮痛剤です。

オピオイド系鎮痛剤には麻薬と非麻薬のものがあります。従来、麻薬は癌性疼痛だけに適応がありましたが2010年から非癌性で中等度から高度の慢性疼痛にも使用できるようになりました。

中等度から高度の慢性疼痛に使用できるオピオイド系鎮痛剤は内服または貼付剤のみです。注射薬は癌性疼痛にしか適応がありません。

現在、当院で処方しているオピオイド系鎮痛剤は以下のようなものがあります。

(1) ترامセツ錠、ワントラム錠 (非麻薬性内服薬)

2011年から国内で慢性疼痛に使用されています。 ترامセツ錠には抜歯後疼痛への適応もあります。

(2) ノルスパンテープ (非麻薬性貼付薬)

これも、2011年から慢性疼痛の適応で使用されています。 ترامセツ錠、ワントラム錠等の内服を1週間継続してみて、副作用等の問題がなければこちらに切り替えることができます。

5mg、10mg、20mgの製剤があり、5mgの大きさは45mm×45mm、20mgの大きさは72mm×72mmです。

皮膚から徐々に鎮痛成分が吸収されるようになっていて、一枚で7日間有効です。

(3) デュロテップMTパッチ (麻薬性貼付薬)

2010年から慢性疼痛の適応で使用されています。これも、 ترامセツ錠、ワントラム錠等の内服を1週間継続してから切り替える必要があります。当院では2.1mg、4.2mg、12.6mgの処方できます。2.1mgの大きさは20.5mm×26.1mm、12.6mgの大きさは60.7mm×55.1mmです。1枚で3日間有効です。

(4) フェントステープ (麻薬性貼付薬)

2014年から慢性疼痛の適応で使用されています。これも、 ترامセツ錠、ワントラム錠等の内服を1週間継続してから切り替える必要があります。当院では0.5mg、1mg、2mg、4mg、6mg、8mgの処方できます。0.5mgの大きさは15.9mm×31.6mm、8mgの大きさは63.3mm×63.3mmです。一枚で24時間有効です。

(1)～(4)の薬剤に共通する主な副作用は嘔気と便秘があります。通常、開始時に専用の下剤(スインプロイク錠)と制吐剤(ナウゼリン錠など)を同時に処方します。

貼付剤に共通の注意点としては、高温になると皮膚からの吸収量が増加して呼吸抑制等の副作用があらわれる可能性があります。サウナや岩盤浴は避け、入浴の際にお湯に浸からない部位に貼る必要があります。

麻薬性の薬剤は、当然ながら他人に譲渡や売却をしてはいけません。また、厚生局に申請することなく海外に持ち出そうとすると処罰されます。さらに、未使用で不要となったものは病院または薬局に返却する必要があります。

最後に、2020年10月から麻薬性内服薬であるオキシコンチンTRが非癌性で中等度から高度の慢性疼痛にも使用できるようになりました。しかし、アメリカでは大量に処方された結果、過剰摂取による死亡が大問題となっているため当院では採用していません。

気になることがあれば整形外科外来にてご相談ください。



三菱三原病院 電話(代表):(0848)-62-7331 FAX:(0848)-62-7764
 居宅介護支援事業所 電話(代表):(0848)-62-7470 FAX:(0848)-62-7431
 各種介護保険事業 訪問介護事業所:(0848)62-7720 ショートステイみつびし:(0848)61-4101
 デイサービスみつびし:(0848)62-7742

三菱三原病院のホームページ <http://www.mmhosp.jp/>

概要をはじめ、外来案内や各科案内、関連施設案内から求人情報、交通手段、人間ドックの案内など、詳細を記載しています。

